

夢・努力・感動 ～生徒とともに～

令和2年3月19日(木)
人権・同和教育部だより
1年生 生徒・保護者版

みなさんこんにちは、人権・同和教育部です。感染症のニュースなどで慌ただしい日々ですが、3月になり、暖かな春の日差しが感じられるようになってきました。

さて、今回は3学期に行った今年度最後の人権・同和教育HR活動を振り返るとともに、ふれあい委員のみなさんによる「ふれあいコラム」を取り上げてみたいと思います。



1年生人権・同和教育HR活動「～ちがいのちが～」

1年生は「ちがいのちが」というテーマを設定し、グループワークを中心に授業が展開されました。今回は副担任の先生方に授業を実施してもらっているクラスもあり、実施日はクラスによって異なります。

○HR活動の内容

- 1, 身近な生活の中にもあるような複数の事例についてそれぞれ、「あっていい違い」、「あってはならない違い」、「どちらともいえない」のどれにあてはまるかを判断し、そのように判断した理由をグループ内で話し合う。
 - ・ワークシートの事例について主体的に考え、自分の意見を述べる。また、相手の気持ちや考え方を大切にしながら話し合う。
 - ・グループ内で意見が分かれた事例についても人それぞれに根拠があり、物事には多様な見方や考え方があることを理解する。
- 2, グループの代表者は話し合いの結果をそれぞれ発表し、クラス全体で各グループから出てきた意見について共有する。
 - ・特にグループにより意見が分かれた事例や、同じ結論であっても異なる理由があげられている事例に注目させることを通して、物の見方をさらに深める。
- 3, 「あっていい違い」と「あってはいけない違い」について理解する。
 - ・人種、性別、文化・習慣そのものは合理的な違いであり、「あっていい違い」だが、非合理的かつ時として差別につながる違いは「あってはいけない違い」である。
 - ・今回の事例で「あってはいけない違い」で取り上げたのは「外国人差別」、「男女差別」、「障がい者差別」、「就職差別」の4つ。

○生徒のみなさんの感想より

- ・グループの中でもそれぞれが違った視点から考えていて、意見が異なっている問題がありました。グループの中でも違う視点から見ることで新しい気づきもあって、思ったよりも深く話し合いができました。
- ・「違い」と「差別」は紙一重だということを改めて知りました。特に男女の違いが難しいと思いました。私は自分の立場からしか考えておらず、他の人のことを考えていませんでした。これから社会で働くようになった時を考えると、人の立場を思いやることが重要だと思いました。
- ・グローバル化が進んで外国人の方との関わりが深くなったり、いろいろな価値観をもつ人が認められるようになってきました。その一方で自分の意見を伝える力が弱くなってきている気がします。相手の意見をきちんと理解し、うまくつきあっていく力が大切だと思いました。

- ・自分と考え方が違って、説明を聞くと納得する部分もあり、改めて話し合いの必要性が分かりました。自分一人の価値感では偏った考え方になってしまうので、いろいろな人の話を聞いて自分の考え方を深められるよい機会になりました。何が正しいか決めつけ過ぎると争いを産むと思うので、まず相手と話し合うことが大事だと思いました。

ふれあいコラム

○ふれあいコラムについて

ふれあい委員の活動の一環として、各クラスのふれあい委員のみなさんから「あなたのクラスでのほっこりエピソード」と「あなたが今、気になっている人権問題」を募集し、以下のようまとめてみました。授業で扱わないことを深く考えている人もいて感心しました。

《ほっこりエピソード》

- ・なくしものをしたとき、席が近い人たちが一緒にさがしてくれたときすぐに見つかり、助けてくれたことがうれしかった。
- ・具合が悪くなり、廊下に倒れ込んでしまった人に気づいた近くのクラスメイトが、声をかけてから保健室まで抱きかかえて運んでいった。
- ・コミの暗唱をみんなの前で言うときや、発言する際にとっても発言しやすい暖かい雰囲気であった。発言後も拍手が起こったり「うまい!」「さすが!」などの歓声が上がることがあり、良い気分になることが多かった。

《人権問題》

- ・私が今気になっているのはコロナウィルスによるアジア人への差別です。私たちアジア人は感染していない人すらも欧米諸国では「出て行け」などの暴言を浴びせられたり、差別をされていることがあるようです。これからまだまだウィルスの感染は広がっていくと思うので、そのような差別的な見方をもっている人は変えて欲しいと思います。
- ・最近、幼児・児童を親が虐待し、中には死に至らしめることが発生しているのが気になりました。これらの問題解決において、H11年に施行された「児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律」とH12年に施行された「児童虐待の防止等に関する法律」をもっと重要化することで解決に導いていくことができるのではないかと思います。
- ・出雲市にはブラジルの方がたくさん住んでいます。僕も小中学校の時、ブラジル人の同級生がいました。ただ、言葉が通じにくいため役所や病院などでは特に困っているそうです。また、言葉の問題から高校進学ができないため、ブラジルに帰国したり他県へ引っ越す人が多いと聞きました。出雲市全体でポルトガル語等に対応できる人をもっと増やして、ブラジルの方が安心してすめるような町にするべきだと思います。

最後に

1年生のみなさんは4月から2年生になり、高校生活も一日一日がより一層かけがえのないものになっていきます。

これからも周囲の人に気持ちを考えながら行動し、困ったことがあれば、友人や先生に相談するなど人との関係を大切にしながら勉強や部活動等、残りの高校生活を充実したものにしてください。

